

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（保護者）95%	生徒指導課 昨年度7月のアンケートで90%であったが、本年度95%とやや回復傾向である。コロナで部活動、学校行事が中止となるケースも無くなってきているので、様々な場面をとらえ礼法指導を徹底していきたい。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 85%以上である。 C 75%以上である。 D 75%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）97%	生徒指導課 昨年度7月のアンケートで96%であったが、本年度97%と高い水準で頭髪服装容疑向上に対する意識を維持してくれている。時代に合った規定を検討しながら意識向上に努めたい。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去5年間の平均値と比べて、変化率が A 15%以上の減少である。 B 15%未満～5%以上の減少である。 C 5%未満の減少～5%未満の増加である。 D 5%以上の増加である。	A 7月時点で過去5年間の平均値より24%（70件）の減少 *H29～R3の平均	生徒指導課 過去5年間で最も少ない数値であった。不登校傾向の生徒がやや少なくなったのと、コロナの影響が弱まり時間を守る学校生活の日常が戻ってきているのではないかと。今後さらに時間を守る意識が高まるよう指導していきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	積極的に校内清掃や教室内の整理整頓に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）87%	保健環境課 生徒の環境美化に対する意識は少しずつ高まっていると思われる。教室は概ねきれいに清掃されており。その他の箇所についても、今後のクリーンウィークや清掃点検などを通して、校内美化の意識を高めていきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）83%	教育相談課 人間関係に不安を抱いていても、自分から進んで相談する生徒は少ないように思われる。そこで、こまめに声をかけ、面談を行ってきたことがこの結果につながったと思われる。今後も、生徒への声かけを行い、生徒の声に耳を傾け、不安なく生活できるように支援していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・遅刻、欠席、早退の集計データから学年によって差異はあるものの、昨年度に比べてやや減少傾向にある。今後も学校を休まず元気に登校する生徒を保護者の方々とも協力しながら育ててほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・休みがちな生徒には、担任、部顧問や教育相談と連携して本人、保護者とこまめに連絡を取り、組織的に対応していく。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践、GIGAスクール構想の推進、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月の生徒による授業評価では81.7%	教務課 生徒の実態に合わせて興味関心を喚起させる授業改善や生徒の習熟度に合わせて難易度を考慮した点、またICT機器の積極的な活用による授業改善の結果が高い評価につながったと考える。今年度入学生から新教育課程が実施されたため、より一層の授業改善や教材の精選に努めていきたい。
	② GIGAスクール構想の推進を図る。	1日に2回以上、生徒に対しクロームブックを使って活動した教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	D 7月の教育活動に関するアンケート（教職員）31%	教務課 今年度より高校において生徒一人1台端末が整備され、授業における積極的な活用が見受けられるようになった。教員のChromeBookの利用頻度は徐々に上がっているが、学習内容によっては授業に機器を利用しないこともあるため、「1日2回以上」という点を厳しくとらえられた回答であったと考えられる。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C スポーツテストの結果では61%	体育管理課 昨年度と比較し、減少傾向にあるが、学年によっては体力合計点が高い学年もあり、改善傾向が見られる。また、体力合計点から高いグループと低いグループの2極化が進んでいることも伺える。コロナ禍で運動部に入っていない生徒の運動機会が減ったことも要因であると考えられる。体育の授業を中心に、体力アップに努めていきたい。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。		進路課 最終集計で判断する。
学校関係者評価委員会の評価		・授業における積極的な活用が見受けられ、利用頻度も徐々にあがりつつある。学習内容に応じて利用すればよいが、生徒たちがみんなで意見を出し合うなど課題解決の共有化を図る場面での活用を工夫してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・研修等を通じて、各種ツールの使い方など職員のICTスキルの向上や教材データの共有化をすすめて一層充実させていきたい。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した部活動が A 8部以上である。 B 6部以上である。 C 5部である。 D 5部未満である。	C 全国高校総体に <u>5部</u> 出場（男女柔道、ウェイトリフティング、ボート、射撃部）	体育管理課 今年度は、5競技と昨年度より、1競技少なくなりましたが、コロナ禍の中で様々な制限があり、従来通りの練習や対外試合等ができない状況があった中で、5競技がインターハイ等の全国大会に出場を決めた。今後も、競技力向上に努めて行きたい。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 80%	体育管理課 コロナの影響が継続する中で、予定通りの活動とはいかない現状であり、各部練習体制の見直し等により、少しでも従来のように計画的に実行できるよう創意工夫して、効率の良い指導で競技力の向上を図りたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 71%	生徒会課 一昨年度から、生徒が主体となって学校行事を企画・運営するように課題をもって取り組んできた。後期は文化祭・体育祭など生徒主体の活動が多くあるので、前期以上に意識させていきたい。
	④ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート (生徒) 53%	生徒会課 本校は生徒会主催のボランティア活動が活発であるにもかかわらず、昨年度に比べて大幅にポイントが低くなってしまった。2学期以降は、生徒自身がボランティアをしたという実感が持てるように発信していきたい。
	⑤ 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート (保護者) 88%	総務課 本年度は、昨年度の84%より、満足している割合が増えた。今後、継続した取り組みの中で、ホームページや学校通信また部活動の結果等で、常に新しい情報発信ができるように努めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・昨年度は見送った修学旅行や職場体験など様々な行事を実施していただいていることに感謝したい。感染リスクには十分配慮し、工夫を凝らした活動を今後も続けてもらいたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・行事等の実施に関しては、より安全にやれる方法を工夫しながら感染対策を考慮して、前向きに対処していく。		

重 点 目 標	具 体 的 取 組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	① 教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月 8 0 時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が A 0 人である。 B (月数× 1 人)以下である。 C (月数× 2 人)以下である。 D Cを上回る。	D 7 月までの 4 ケ月で時間外勤務 8 0 時間を超える延べ人数が 1 6 人。	R 4 年度は、R 3 年度の 1 4 人からやや増加したが、コロナ禍以前の R 元年度の集計値の 3 0 人からは大幅に減少しており、校務の効率化が学校全体としてはすすんでいることが確認できる。
		(全教員)タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が A 8 0 %以上である。 B 7 0 %以上である。 C 6 0 %以上である。 D 6 0 %未満である。	B 7 月の教育活動に関するアンケート (教職員) 7 6 %	ほとんどの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。働き方改革は、かなり浸透している。しかし、運動部顧問や一部の教職員においては、大会等への参加、強化育成が最優先となっていたり、業務の効率化がなかなか進まない状況も依然として見られる。
学校関係者評価委員会の評価		・運動部において強化育成が優先される状況もあるが、休みとのバランスや時間管理を含めて調整し、仕事の効率化を全体ですすめてほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・仕事の効率化をすすめていくために、ペーパーレス化や会議時間の短縮など、「働き方改革」についてできることから少しずつ取り組み、取り入れていく。		